

教育学部実習地および寺山施設の取り組みと現状について

著者	池田 充
雑誌名	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書
巻	16
ページ	37-38
URL	http://hdl.handle.net/10232/9645

教育学部実習地および寺山施設の取り組みと現状について

池田 充
(教育学部)

はじめに

教育学部実習地および寺山施設で、今日までに様々な企画が紹介されてきました。

前回までの報告につづき、今回は学生にとどまらず、園児・生徒にも幅広い活動や、新たな企画も実施したが、様々な活動を行うことで問題が発生したため、ここに活動内容の反省と追加報告を行うこととした。

I、栽培学実験実習

現在、教育学部の栽培実習は、前期を中心に集中的に実施されている。栽培の基本理論と栽培作物の説明を、播種から収穫までの流れの中で作業と同時進行で行っている。

まったく予備知識のない状態での学生に、鍬の持ち方からの指導を行うのは教育学部における栽培実習の宿命であるといえるが、それもまずは学生の技術取得のひとつと位置づけ、惜しみなく技術を丁寧に指導することが大切といえる。

将来、学生が学校現場に赴任した時、野菜また花壇などが学校で栽培されているため、即実践できる技術を習得するためには、多種類の作物を栽培体験する必要があるといえる。

野菜栽培をはじめとして、学校現場で忘れてはならないものが花壇づくりである。実習では、花壇の材料は実習時間の関係で、現場で準備せざるをえなく、学生は花壇設計から植え付け管理までを行っている。その後、開花時に、教職員や学生、学部への訪問者など多くの人が花壇を目にするため、栽培意欲の刺激に繋がっている。また、栽培実習では構内における実習（活動）を中心に授業が進められていたため、学生にとって学校の花壇および美化活動の状況を知る機会が少なく、教育実習程度しか体験する機会がない。そこで、学校の花壇および美化活動の状況、教師の取り組み方を、実際に学校訪問をし、今後、学生が栽培に取り組むための意識向上に繋げるために、学校花壇見学実習を取り入れた。見学する学校は、鹿児島市教育委員会に依頼し、市内の学校花壇コンクールで最優秀賞を受賞した西紫原小学校を訪問した。学生が実際に現場の先生の生の声を聞く機会を得たことにより、現場の工夫、苦勞や喜びを感じ取らせ、今後、学生が将来教師としての目標を再確認させる狙いもあった。

そのため学生は現場の教師にあらゆる質問をぶつけ自らの財産にしたいと真剣に取り組む実習になった。

II、寺山自然研究施設における活動状況

寺山施設では、永年、園外保育として付属幼稚園におけるさつまいもの苗植え付けを5月に70名の園児が行っているが、年少の園児には芋のツル植えは少々困難な作業のため、年長のみの参加である。11月には3歳児の年少から総勢85名の園児が芋掘りを施設内の圃場で行ってきた。当初は職員（幼稚園教諭）と技術職員の数名で園児のサポートをおこなってきたが、寺山に到着してから園に帰るまでの時間に制約があるため、園児が寺山の自然環境に触れることができずに終了し、帰園せざるをえなくなっていた。し

かし数年前から園の保護者と学生の応援を得ることができ、園児に細やかな指導ができる上、さらに保護者に寺山の自然環境を紹介できる機会もとれた。

結果、益々寺山での園外保育に保護者の理解と施設の利用向上に繋るようになった。また、保護者と学生の協力を得ることによって時間を有効活用することができ、寺山の自然に触れる機会を生み出すことができた。特に、園ではできない遊び（草すべり・昆虫とり・野草とり）などができ、今では芋掘りに匹敵するほどの楽しみの時間となった。

Ⅲ、付属中職場体験学習を受け入れて

近年、就業をめぐる環境が大きく変化している中で、目的意識が希薄なまま自分の進路を選択してしまう若者が増加しています。このような状況をうけて、進路学習の一環として、この職場体験学習が実施されている。そこで実習地では、中学生に食を意識させる職場体験を提供したいと考えた。

体験は、短期間の2日間であるため、職員がかねて行う作業を中心に計画した。初日は寺山の農産物（山芋・里芋・大根・カブ・深ネギ・ショウガ・高菜・辛いね大根）の収穫・調整・袋詰めをした。2日目は、実習地の農産物（ハウレンソウ・水菜・花苗）の収穫し、各学部の大学職員に販売を行った。以上の体験から野菜がどのように収穫され、どのような規格で調整・販売されるかを、身をもって体験することで、食に対する意識の変化を期待した。また、労働の代償として収穫物をお裾分けし、自宅で食してもらうことにより、生徒に食の有り難さを感じてもらった。

Ⅳ、学内における環境美化の取り組み

学部構内の正面玄関において、環境美化（とりわけ花における美化活動）を実施している。実習地では短期的ではあるものの、学生にボランティアで協力をもらいながら、春に、菜の花を植え、初春の花や香りで学生・職員・来訪者に楽しんでもらっている。

その他、プランターによるパンジー・ピオラ・ペチュニアなども同時に見頃で、春の学部正面は花で彩られている。

以上、自ら企画立案し実施した内容には、相当に改善していくべき部分があると思われる。例えば、花壇見学実習は夏休みに実施したため児童がいなかった。そこで、花壇見学実習の時期を、受け入れ校と検討し、学生が、教師だけでなく、児童ともふれあえる時間をもてるように計画したい。また、大勢の学生を、学内環境美化活動の参加に呼びかけ、環境や花づくりに興味を持ってもらえるような内容を企画・実施することが、技術職員の役割でもある。今後も、学生により多くの情報と栽培技術の提供に貢献し、自らの技術向上にも努めたい。